

「ふるさとテレワークを活かした地域スモールビジネスによる人材創造拠点整備事業」

株式会社M-easy(愛知県豊田市)

コンソーシアム名	つくラッセル事業推進コンソーシアム				
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	株式会社M-easy、株式会社ピー・エス・サポート、名古屋大学未来社会創造機構森川高行教授（調整中）、名古屋大学大学院環境学研究科高野雅夫教授（調整中）、東京大学大学院教育科学研究科牧野篤教授（調整中）、一般社団法人おいでん・さんそん、築羽自治区、豊田市				
地方移動者数	従業員：3	個人：1	地元ワーカー数	従業員：0	個人：5
事業概要	サテライトオフィス、コワーキングオフィスに、企業・大学を誘致。企業、大学、行政、地域がともにはたらき、持続的に成長発展できる地域スモールビジネスが沸き上がる人材創造拠点となる。				



旧築羽小学校
廃校になった小学校を活用

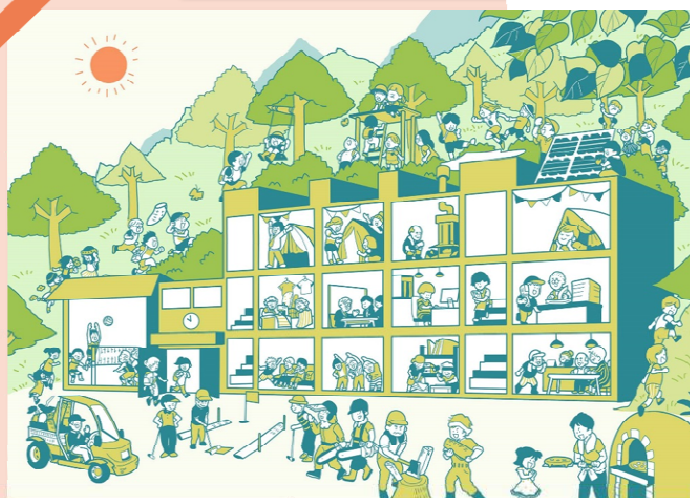
企業・人材を誘致する仕組み

◆「企業と農山村をむすぶコーディネート業務」
企業と農山村をむすびつけるコーディネート組織、大学とともに新たな企業・人材を誘致する情報発信、営業、PRイベント（とよたの山里マッチングツアー）を実施
連携：豊田市、おいでんさんそんセンター（一般社団法人おいでん・さんそん）、株式会社ピー・エス・サポート、東京大学

整備・運用

新事業が沸き上がる仕組み

◆「ICTを活用した地域支え合いの仕組み構築による新事業の創出」
高齢社会の課題先進地である中山間地でICTを活用した地域支え合いの仕組みづくりに取り組む大学と連携した新事業の創出（名古屋大学未来社会創造機構）
◆「地域スモールビジネスによる新事業創出」
地域社会起業家の集いをベースに、大学、地域、行政、企業が交流し、新事業が沸き上がる場づくりを行う（地域スモールビジネス研究会に所属する起業家・個人、株式会社M-easy）



移住定住を受け入れる仕組み

◆「空き家バンク制度」
移住者の住まいをサポートする連携：豊田市、おいでん・さんそんセンター（一般社団法人おいでん・さんそん）、築羽自治区
◆「いなか暮らし総合窓口」
移住者に寄り添い、暮らし・仕事・住まいなどの相談を受ける連携：おいでんさんそんセンター（一般社団法人おいでん・さんそん）

めざす展開

1. 生活者目線の人材育成の場

地域に住むひとりひとりが、関係する企業、大学、行政にぞくするひとりひとりが、相互に交流し、自分自身と地域に向き合う中で、主体的で創造的な暮らしかた、はたらきかたを発見できる場になること。

2. 相互関係による新しい事業の創出

地域、企業、大学、行政の立場をのりこえて、交わり合いながら、社会課題に取り組む新しい事業がうみだされる場になること。

3. 持続可能な高齢社会のありかたの提案

高齢者、若者、子どもたちと相互の交流の中で、死ぬまで元気で活躍できるありかたを提示することで、安心して年を重ねられる暮らしかたはたらきかたを提案すること。

4. 暮らしの中ではたらくを両立した次世代育成の日常空間の創出

テレワークを最大限活用し、農山村での暮らしとはたらくことを両立できる人材の活躍を次世代の子どもたちが身近にふれることができる日常空間を創出すること。

5. クラウドソーシング拠点

都市部の仕事を受注し、農山村の暮らしと両立しながらし続けることができる仕組みを構築し、新しい農山村での新しいはたらきかたのモデルとなること。